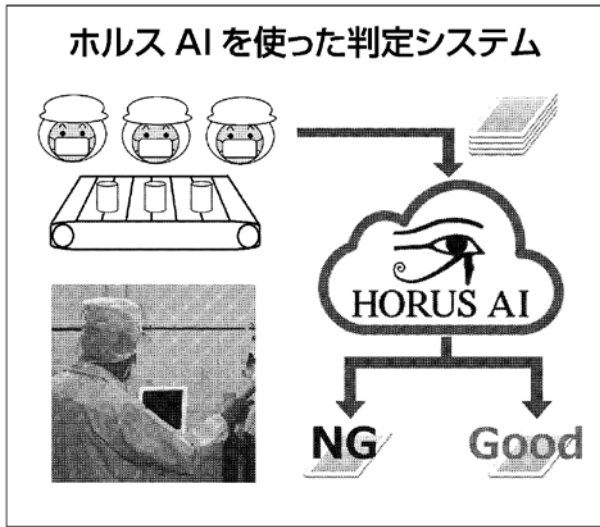


# 画像検査専用AI開発

## アドダイスベテラン技能も学習



アドダイス（東京都台東区、伊東大輔社長、03・6796・7788）は、画像検査専用人工知能（AI）の「HORUS（ホルス）」AIを開発した。画像処理方式が苦手とするベテラン検査員の技能も学習できるのが特徴。目視判断技能の承継と標準化が実行でき、検査業務の負荷軽減に加え検査のノウハウも維持できる。2019年度に1億円超の売上高を目指す。

### 検査精度容易に変更

ホルスAIは客先の「百万円の安いシステム検査基準にに応じて、数から数千円の高精度

システムまで設定を変えられる。傷や汚れなどの高速外觀検査、X線検査装置と連動した異物混入検査などで活用を見込む。

検査基準の標準化に加え、人間では判断が難しい選別ができ検査効率が向上する。システムをパッケージ化しており短期間の導入が可能で、検査精度（A級、B級、C級）の設定も簡単。納入先の仕様変更で品質基準を変えられることもできる。

電子機器や医療、食品検査などで画像処理装置は広く普及している。だが「撮影した商品画像でどこまでが正常品で、どこからが不良品か、境目の判断が

ポイントになる」（伊東社長）。基準を厳しくすれば不良品が多く発生して歩留まりが悪化するし、納入先が求めるレベルによっても左右される。人間が担当すると体の調子や長時間、働いた後などにばらつきが生じやすいが、AIにより標準化できる。